

編集後記

編集委員の任期中に、生まれて初めての救急搬送を経験しました。早朝の激しい腹痛で目が覚め、下痢・嘔吐・悪寒・呼吸苦・心拍数低下・渇き・意識レベル低下……。搬送中に猛烈な眠気に襲われ、それまでうるさかった救急車のサイレン音が聞こえなくなってきたとき、ぼんやりと思いついたのは、ニュースなどでよくあるフレーズ『死亡した男性は、搬送中は意識があったということです』。うーむ、こういうことか、と。その時は自身の状況が全くわからないため、このまま死亡する可能性を完全には否定できませんでした。不思議なことに、意識が薄れて苦痛がなかったこともあるのですが冷静に、死をそのまま受け入れられる気持ちでした。そう、「このまま死ぬ？……そうなんだ、死ぬんだ」。それに続く感情が、ない。あっけないくらい、後悔も無念さも寂しさも恐怖もなく、かといって人生の達成感や充実感もなく、ただ自然と、文字通り全てを手放して死を受け入れる気持ちでした。

—— 結局、今こうして生きているわけですが、そのときの体験によって、私の心に芽生えてきたのは何か。謙虚

さ？生かされていることへの感謝？日々の生活を大切にす
る気持ち？健康第一の願い？そのどれもが的外れ、私の心
には死に対する明らかな観念が生まれてきました。「苦痛
さえなければ、死ぬことは恐れることじゃない。避けられ
ない明確な死に直面した時、私はそれを受け入れればい
い」と。考えてみれば「自分」が死んでしまえばその後は
虚空であり、どうあがいても死後のこの世を直接はコント
ロールできない。自分は単なる生物の一個体であり、生ま
れながらにして天寿を全うする権利をもっているはずもな
い。だから、「まだ死にたくない！」とか、「やり残したこ
とがあるんだ！」などといって生にしがみつくのは、それ
はどこかおこがましい態度であるように思われたのでし
た。

私があと何年（いや、何ヶ月、何日もかもしれない）生き
られるのかわかりませんが、最期はジタバタしない、良い
死に方をしたいものです。そして、そのより良い死に方を
めざして、今を生きているのではないかと思います。

（成嶋吉朗）

プラズマ・核融合学会役員

会 長	二宮 博正	副 会 長	永津 雅章（推薦委員長：研究助成）	小森 彰夫（推薦委員長：学会賞）
常務理事	室賀 健夫（総務委員長）			
理 事	安藤 晃（企画委員長）	石原 修	上田 良夫	
	小野 靖	甲斐 俊也（財務委員長）	草間 義紀（広報委員長）	
	佐々木浩一	清水 克祐	白神 宏之（支部・地区研究連絡会委員長）	
	白谷 正治（研究部会連絡委員長）	豊田 浩孝（編集委員長）	波多野雄治	
	福山 淳（年会運営委員長）	米田 仁紀		
監 事	市村 真	中澤 一郎		

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：豊田浩孝（名大） 副委員長：米田仁紀（電通大）

エディタ：安藤 晃（東北大）、坂本瑞樹（筑波大）、中村祐司（京大）、長友英夫（阪大）、小西哲之（京大） 佐々木浩一（北大）

編集委員：石澤明宏（核融合研）、内田儀一郎（阪大）、浦野 創（原子力機構）、落合謙太郎（原子力機構）、陰山 聡（神戸大）、笠田竜太（京大）、糟谷直宏（九大）、加道雅孝（原子力機構）、川崎仁晴（佐世保高専）、柴田裕実（阪大）、清水一男（静岡大）、白石裕之（大同大）、城崎知至（広島大）、鈴木達也（長岡技科大）、高橋俊樹（群馬大）、徳沢季彦（核融合研）、沼田龍介（兵庫県立大）、長谷川純（東工大）、林 信哉（九大）、菱沼良光（核融合研）、古川 勝（鳥取大）、増井博一（九工大）、松岡彩子（JAXA）、宮澤順一（核融合研）、森 芳孝（光産業創成大学院大）、森本泰臣（日揮）、山本 聡（京大）

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第90巻第7号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

印刷 株式会社荒川印刷

一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

2014年（平成26年）7月25日

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: http://www.jspf.or.jp/ 定価1,300円（税別）

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。